

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成27年度)

施設 の 名 称	宮城県長沼ボート場
指 定 管 理 者 の 名 称	宮城県ボート協会
施 設 所 管 部 課 (室)	教育庁 スポーツ健康課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成18年4月 ~ 平成21年3月	指定管理者	宮城県ボート協会	
平成21年4月 ~ 平成24年3月	指定管理者	宮城県ボート協会	
平成24年4月 ~ 平成27年3月	指定管理者	宮城県ボート協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	宮城県ボート協会
	所在地	宮城県石巻市田道町一丁目6番18号
指 定 期 間	平成24年4月1日 ~ 平成27年3月31日 (3か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県長沼ボート場 (アイエス総合ポートランド)	
所 在 地	宮城県登米市迫町北方字天形114-2	
設 置 年 月	平成元年10月	
根 拠 条 例 等	総合運動場条例	
設 置 目 的	スポーツの普及振興を図り、もって県民の心身の健全な発達と福祉の増進に資するため。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	2,202.02 m ²
	構 造	鉄骨造平屋建
	内 容	①艇庫, トレーニング室, 会議室, 更衣室 ②コース 延長2,000m 8レーン(日本ボート協会公認A級コース) ③判定塔, 鉄筋コンクリート造3階建
開 館 (所) 日	休館日(月曜日, 12月29日~1月3日まで)を除く毎日	
開 館 (所) 時 間	会議室及びトレーニング室 4月1日~10月31日 午前9時~午後9時 11月1日~3月31日 午前10時~午後9時 会議室及びトレーニング室を除く全施設 4月1日~10月31日 午前6時~午後7時 11月1日~3月31日 午前10時~午後5時	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 施設全体の管理運営業務 2 施設の使用許可申請の受付及び許可並びに利用料金の収受に関する業務 3 施設の使用の制限及び入場の拒否等に関する業務 4 施設の機械設備の操作・日常点検業務 5 施設・設備, 物品及び敷地の維持管理業務 6 その他施設の管理運営業務に関して宮城県教育委員会が必要と認める業務	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	施設利用料金

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
開館(所)日数	307 日	308 日	307 日	100.0%	99.7%
延べ利用者数	13,650 人	5,975 人	13,650 人	100.0%	228.5%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
トレーニング室	4,967 人	2,634 人	4,967 人	100.0%	188.6%
ボート	2,420 人	723 人	2,420 人	100.0%	334.7%
判定塔	226 人	121 人	226 人	100.0%	186.8%
ボートコース	5,416 人	2,024 人	5,416 人	100.0%	267.6%
審判艇	286 人	181 人	286 人	100.0%	158.0%
会議室	203 人	231 人	203 人	100.0%	87.9%
シャワー室	132 人	61 人	132 人	100.0%	216.4%
合 計	13,650 人	5,975 人	13,650 人	100.0%	228.5%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成27年度) (A)	前 年 度 (平成26年度) (B)	評価対象年度 (平成27年度) (C)		
県指定管理料	11,705	11,005	11,705	100.0%	106.4%
利用料金収入	1,500	1,332	1,844	122.9%	138.4%
その他	12	3	12	100.0%	400.0%
収 入 計 (a)	13,217	12,340	13,561	102.6%	109.9%

(2) 支出

人件費	3,216	2,961	3,060	95.1%	103.3%
施設管理費	6,570	6,993	6,367	96.9%	91.0%
事業運営費	3,431	2,374	4,071	118.7%	171.5%
その他	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
支 出 計 (b)	13,217	12,328	13,498	102.1%	109.5%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	12	63	#DIV/0!	525.0%
前期繰越収支差額	12	3	12	100.0%	400.0%
次期繰越収支差額	12	12	75	625.0%	625.0%

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平成27年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	運営組織に則り、業務する体制が確立されている。平成27年度は4～10月期間アルバイト1名で対応した。(10月からは、所長1名体制)		必要に応じて協会員がサポートする体制で、各大会も支障なく開催された。		A	各種大会が計画通り開催されており、管理運営も適切である。	A
人員体制	正規	1人	非正規	1人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	機械警備及び消防施設点検時データ処理システム保守、浄化槽点検、ゴミ収集、電機保安、コース設置・撤去を実施。他コース施設、判定塔施設、艇庫の修繕を実施。		点検時の立ち会い引き渡し確認、レース時の業者立ち会い等で施設管理維持に努めた。		A	外部委託のほかに、施設・設備の自主点検を行っており、また経費節減に努め、必要な修繕・備品購入等についても適切に実施している。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	平成27年度は、全国規模の大会は全日本社会人選手権大会、河北レガッタ(各2000m)である。東日本医科学生医療系レガッタを開催。県内関係大会も含めて大会開催運営にあたっては、必要に応じて協会員がサポートした。		各大会、支障なく実施され、無事終了した。		A	大会開催時には、大会運営や施設管理について協会員がボランティアとして補佐し、施設利用者のサービス充実に努めた。地元自治体と連携し、施設PRを積極的に行った。	S
④自主事業の実施	なし				—	指定管理者が競技団体であることから、常に施設利用者に対して技術的指導・助言を行っている。協会員という人材を活かしたより積極的な自主事業の実施を期待したい。	B
⑤利用者サービスの向上	利便性の向上を図るため、月曜日の休館日でも、練習会や合宿等での利用希望に配慮して開館している。		インターハイ、国体に向けて合宿に利用するチームがいるので利用者のニーズを把握してサービス向上に努力している。		A	休業日であっても、試合日程等を考慮し、利用者からの要請があれば開館し対応している。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	アンケート調査箱を設置して要望の収集に努めているが、平成27年度回収は1枚のみであった。また、協会の理事会等で常に施設運営の意見等の把握に努めている。		アンケート回収増加に向けて、利用者や大会参加者に積極的に働きかけたい。		A	施設内にアンケート用紙を設置し、苦情・要望等の把握に努めているが、現在のところ利用者からの回収件数は少ないが、利用者との日頃のコミュニケーションを大切に、要望をくみ取っている。	A
⑦安全対策	中学・高校の監督責任者との密接な連絡、指導を実施している。場内放送を利用し、突風強風による注意を伝達している。また、県市・警察・消防・漁協との連携を密にしている。		ボート場内水面の安全管理については、場内定刻巡回を実施している。救助艇・審判艇・作業艇にはライフジャケット着用を推進している。		A	コース利用中における沼水面の巡回、救助艇の待機など、安全性を確保するとともに、気象条件にも注意し、関係機関との連携にも努めている。	A
⑧県民の平等利用	消防署、長沼花火大会、長沼フードマラソン、ゲートボール、グランドゴルフや長沼レガッタの開催等、ボート場内外は幅広く県民に利用されている。		平等利用を一層推進すると共に、ボート場内は一部をボート競技者・関係者以外立入禁止にしている。特に、釣り人のマナーが悪く、場内は漁協と連携して全面禁止としている。		A	ボート大会のほか、地元イベントにも積極的に協力し、地域に親しまれる施設運営を志している。全国規模の大会を継続的に開催するなど、幅広い利用者の増加に努めている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	個人情報保護規定により適切に管理している。	宮城県個人情報保護条例に基づき、厳重に管理している。	A	個人情報保護規程を設置し、個人情報保護に努めている。	A
⑩利用実績	平成27年度より各利用施設毎の利用延人員として、報告することに変更したので年間目標は立てなかった。(平成26年度は来場者数で報告)	平成27年度は東北各県の高校の利用が例年より増えた。(利用収入増にも反映している。)	A	利用者数の集計方法を変更することで、より実態に近い利用状況を把握している。県外高校へ積極的にPRを行い、利用者増に努めている。	S
⑪収支実績	平成27年度 収入 13,561,871円 支出 13,498,768円 残額 63,103円	利用料収入目標 1,500,000円 実績 1,844,184円 (対前年収入増 512,291円) 東北各県の高校利用増が主である。	A	施設のPRを積極的に行うことにより、利用料収入が大幅に増加した。支出については経費削減に努め、黒字となった。	A
⑫その他の取組	艇を始めとする設備に老朽化が進んでいるが、艇については平成27年度も仙台大学ボート部のインターシップ職場体験学習を受け入れて、修繕の一助にしている。 (H27.9.17～19 7名)	体験学習後の感想で、裏方の仕事の体験を通して、感謝の心が芽生えたようである。	A	地元大学からの要請により、職場体験に協力することは、ボート競技への理解を深め、ボート場への愛着を生むこととなり、ボート競技の活性化につながり、当施設においても有意義なことと考える。	A
総合評価		利用料収入増の中で施設の修繕や運営を円滑に実行した。	A	利用日等について、利用者のニーズに応え弾力的に運用している。 また、各種大会が計画通り開催され、管理運営面でも適切であり。施設・備品等の必要な整備に努めながら、利用者数及び利用料収入の増加に貢献した。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	平成28年8月実施の全日本新人選手権大会、平成29年度のインターハイ、2020年東京オリンピック海外チーム合宿候補地として、老朽化する諸施設の早急な修繕が不可欠である。	施設修繕、備品更新については、利用者の安全性を最優先に利便性、費用対効果を考慮し、計画的に進めたい。 当施設の円滑な運営には、関係機関(県土木事務所、登米市、漁業組合等)との連携が不可欠である。